

令和 2 年 9 月 14 日現在

機関番号：32607

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2015～2019

課題番号：15K11641

研究課題名（和文）がん体験者の「情報リテラシー」向上のためのプログラム開発

研究課題名（英文）Development of a program to improve information literacy of cancer survivors

研究代表者

久保 五月（Kubo, Satsuki）

北里大学・看護学部・教授

研究者番号：60348597

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、がん体験者の情報リテラシーを高めるプログラムを開発するために、がん体験者の治療後の情報ニーズと情報探索行動を明らかにすることである。大腸がん・前立腺がん・子宮体がん体験者を対象とし、手術後6か月、1年、2年、3年の計4回にわたって、情報ニーズに関する面接と健康関連QOL調査を行った。その結果、対象者に共通する情報ニーズと、がんの種類、治療後の期間ごとの特徴が明らかになった。がん体験者の情報探索行動は多様であり、個人の価値観やスキル、活用できるサポート資源、医療者との関係性などが影響していた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、従来の医療者主導の情報提供型支援から脱却し、がん体験者の主体性を促しリテラシー向上に働きかける新たな方法の創出を目指している。その基礎研究として、治療後の情報ニーズと情報探索行動の変化に着目し、前向き・縦断的デザインで長期に探求した点に新規性がある。がん種、治療法、治療後の期間ごとに得られた知見をプログラムに活用することで、より実践的・効果的な情報支援の一助になると期待できる。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to clarify information needs and information seeking behavior of cancer survivors after treatment to develop a program to improve information literacy of cancer survivors. Survivors of colorectal cancer, prostate cancer, or endometrial cancer underwent interviews about information needs and health-related quality of life surveys 6 months, 1 year, 2 years, and 3 years after surgery. The results revealed the information needs common among the subjects and those characteristic to different types of cancer and time points after treatment. Information seeking behaviors of the cancer survivors differed in a wide range, depending on various factors, such as each person's sense of values, health literacy, available support resources, and relationships with healthcare professionals.

研究分野：がん看護学

キーワード：情報リテラシー 情報ニーズ 情報探索行動 ヘルスリテラシー がん体験者 前立腺がん 大腸がん 子宮体がん

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

1. 研究開始当初の背景

医療の進歩に伴ってがん体験者が増加し、延長された生命の長さだけでなく、“人生の質”が問われるようになってきた。情報を得ることががん体験者の健康や QOL 向上に効果をもたらすとの報告を受け、海外では治療後のフォローアップや教育など、長期的な支援の充実を図る動きが加速している。しかし、わが国のがん医療はいまだ診断から治療までの急性期に重点が置かれ、治療後の長期的なケアが十分に行われているとは言いがたい現状である。がんという疾病の性質上、治療後も転移や再発の不安を抱え、新たな治療や予防に関する情報を求める人は多く、がん体験者を対象とした調査では、その半数以上が情報量の不足を感じているとの結果であった。さらに、治療を終え医療機関との関係が希薄になるにつれて、情報ニーズはさらに高まるとの報告もあり、長期的な情報支援の充実とその実現に向けた実践的な研究が求められている。

2. 研究の目的

本研究の目的は、がん体験者の情報リテラシーを高めるプログラムを開発するために、がん体験者の情報ニーズと情報探索行動を長期的に探求することである。5年の研究期間で以下の3点を明らかにすることに取り組んだ。(1)がん種および治療法による違いはあるか、(2)治療終了後の期間による違いはあるか、(3)情報探索行動を促進あるいは阻害する要因は何か。

3. 研究の方法

研究対象者の疾患は、がん統計(国立がん研究センターがん対策情報センター報告)を基に、(1)5年生存率が高い、(2)罹患者数が多く、罹患率が増加しているという条件から、前立腺がん・大腸がん・子宮体がんとした。対象者1名につき、初期治療終了後6か月、1年、2年、3年時に1回ずつ、計4回の調査を実施した。データ収集は、(1)情報ニーズに関する半構成的面接、(2)SF-36v2TM日本語版を用いた健康関連 QOL 質問紙調査を実施し、さらに前立腺がん体験者には EPIC 日本語版も併用した。面接の記述データから「情報ニーズ」と「情報探索行動」を質的帰納的に抽出し、質問紙調査のデータは面接内容の理解を深めるために補助的に用いた。

4. 研究成果

計4回の調査を完遂した対象者は、前立腺がん体験者15名(手術療法6名、放射線療法9名)、大腸がん体験者(手術療法)14名、子宮体がん体験者(手術療法)16名であった。対象者の SF-36v2TM日本語版のスコアは、治療後6か月、1年、2年、3年の全ての時点において、2017年版国民標準値とほぼ同様の結果を示しており、対象者の健康状態の回復は概ね順調であった。

(1) 情報ニーズの全体像とがん腫および治療法による特徴

治療後の情報ニーズは、がん体験者が【知りたいこと】と、情報探索する過程で生じた【がん体験者の願いや要望】に大別された。がん体験者が【知りたいこと】は多岐にわたっていたが、診療、身体、心、暮らしの4側面に整理することができた。各側面に含まれる主な項目は、疾患(がん、併存疾患)、治療効果とフォローアップ、医師や施設の専門性、疾患あるいは治療によって生じた(生じる可能性のある)症状・機能障害と対処方法、再発・転移の可能性、同病者との交流の場、不安の対処方法、よりよい生活のための工夫、治療費・利用可能な支援制度などであった。

【知りたいこと】の内容には、がん種ごとの特徴が認められた。具体的には、前立腺がん体験者では排尿障害、大腸がん体験者は排便障害、そして子宮体がん体験者は女性生殖器喪失による影響への関心が高かった。前立腺がん体験者は、自分が受けた治療だけでなく、他の治療法にも

関心を寄せ、各治療法の合併症、がんの転移・再発リスクを比較して、自分の選択が適切であったかどうかを確かめようとしていた。前立腺がんの治療は選択肢が多く、意思決定は容易ではない。あらためて治療選択時の情報提供の重要性が示唆された。

情報探索過程で生じた【がん体験者の願いや要望】は3つに整理された。対象者は、医療者には十分な情報を提供して“私”を安心させてほしいと求める一方で、情報を正しく理解するために“私”自身の力を高めたいとも考えていた。さらに、治療体験で得た情報を“私”から発信したいと願っていた。この結果は、がん体験者を情報の受け手とみなす従来の情報支援の限界を示し、転換の必要性を示しているといえる。

(2) 治療後の情報ニーズの変化と時期による特徴

がん体験者の情報ニーズの多くは、治療後6か月までの期間に集中していた。これは、がんサバイバーシップの時期で言えば、延長された生存の時期(extended stage of survival)を指し、いわゆる治療後の経過観察期に該当する。治療による身体的な後遺症や限界、ボディイメージの変化を体験したがん体験者は、がんとともに生きる“新しい自分らしさ”をための情報を求めており、時宜を得た情報支援の重要性が明らかになった。一方、がんの転移や再発のように、時間が経過しても常に存在する情報ニーズも認められた。

(3) 情報探索行動を促進・阻害する要因

がん体験者の情報探索過程には、4つの局面:【局面1:情報の入手】、【局面2:情報の理解】、【局面3:情報の評価】、【局面4:情報の活用】が存在した。【局面1】は、情報との出会いの段階である。対象は、知りたいことに応じて、あるいは何が知りたいかわからないままに“情報源にアクセスする”ことを試みていた。情報源は、医療者、同じ疾患・治療の体験者、書籍、メディア、セミナーなど多岐にわたり、インターネット情報も熱心に探していた。家族、知人から“間接的に情報を得る”こともあった。【局面2】は、情報を咀嚼する段階である。対象者は、“情報を追加する”、“他の情報と比較する”、“体験と照らしあわせる”などの方法で、入手した情報を納得できるまで確認した。【局面3】は、情報の価値を吟味する段階である。情報の価値は、信頼性・有用性、自分との共通点などの観点から判断されていた。【局面4】は、情報の活かし方を意思決定する段階であり、何らかの行動をともなっていた。情報を得て新たなニーズが生まれることによって、情報探索は続いていた。他者に“情報を提供する”ことで自身の治療体験を活かす人もいた。しかし、それぞれの局面でがん体験者がとる行動は多様であり、情報探索行動には個人の価値観・スキル、活用できるサポート資源、医療者との関係性などの要因が影響していた。

これらの研究結果より、がん体験者の情報リテラシーを高めるプログラムのコンテンツとなる知見を得ることができた。しかし、本プログラムをより実践的・効果的なものとするためには、コンテンツの吟味だけでは不十分である。情報支援を行う医療者への教育・支援、がん体験者目線の医療システムの構築を検討することが今後の課題である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 佐久間愛、久保五月	4. 巻 22
2. 論文標題 大腸がん体験者の情報ニーズに関する国内文献レビュー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 北里看護学誌	6. 最初と最後の頁 11-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 佐久間愛、久保五月
2. 発表標題 大腸がん体験者の情報ニーズに関する国内文献レビュー
3. 学会等名 第33回 日本がん看護学会学術集会，2019.2.24，福岡．
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐久間愛、久保五月
2. 発表標題 大腸がん体験者の初期治療後の情報ニーズと情報探索行動～手術療法後6か月に焦点をあてて～
3. 学会等名 第32回 日本がん看護学会学術集会，2018.2.4，千葉．
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Satsuki Kubo, Risa Anbo, Miki Sato
2. 発表標題 INFORMATION NEEDS AND INFORMATION-SEEKING BEHAVIOR OF ENDOMETRIAL CANCER SURVIVORS - FOCUSING ON 3 MONTHS AFTER SURGERY
3. 学会等名 International Conference on Cancer Nursing 2018. 24 Sep, Auckland, New Zealand. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 紫藤綾、久保五月
2. 発表標題 前立腺がん体験者の初期治療後の情報ニーズ～手術療法後6か月に焦点をあてて～
3. 学会等名 第31回日本がん看護学会学術集会，2017.2.5，高知．
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Satsuki Kubo, Naomi Shimizu, Mariko Kishine
2. 発表標題 FACTORS FOR ENHANCING CANCER SURVIVORS' INFORMATION LITERACY
3. 学会等名 International Conference on Cancer Nursing 2016. 5 Sep, Hong Kong, China (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 紫藤綾、シュワルツ史子、清水奈緒美、久保五月
2. 発表標題 重粒子線治療を受けた前立腺がん体験者の情報ニーズ - 治療終了後6か月に焦点をあてて -
3. 学会等名 第34回日本がん看護学会学術集会，2020.2.23，東京．
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 シュワルツ史子、紫藤綾、清水奈緒美、久保五月
2. 発表標題 重粒子線治療を受けた前立腺がん体験者の情報探索行動 - 治療終了後6か月に焦点をあてて -
3. 学会等名 第34回日本がん看護学会学術集会，2020.2.23，東京．
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 近藤まゆみ, 久保五月 編著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 医歯薬出版株式会社	5. 総ページ数 204
3. 書名 がんサバイバーシップ がんとともに生きる人びとへの看護ケア 第2版	

1. 著者名 久保五月, 藤田佐和, 荒尾晴恵, 雄西智恵美, 小澤桂子, 後藤志保, 佐藤まゆみ他	4. 発行年 2017年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 398(24-26)
3. 書名 がん看護コアカリキュラム日本版 手術療法・薬物療法・放射線療法・緩和ケア	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	近藤 まゆみ (Kondou Mayumi) (10627459)	北里大学・大学病院・その他 (32607)	
研究分担者	佐藤 威文 (Satou Takehumi) (50286332)	北里大学・医学部・准教授 (32607)	
研究分担者	松原 康美 (Matsubara Yasumi) (10779010)	北里大学・看護学部・准教授 (32607)	